



## 第 8 回キンボールスポーツワールドカップ 2015 大会レポート



画像提供:ESJAPON.com

■派遣期間：2015年8月15日(土)～8月24日(月)

■大会期間：2015年8月18日(火)～8月22日(土)

■開催場所：スペイン マドリッド州 トレホン・ド・アルドス

■部 門：男子の部、女子の部

■参加国：男子12カ国、女子9カ国(下記参照) ※新規参加国：スロバキア、オーストリア

■最終順位および予選結果：

### ★男子の部

1 日本	予選 54 ポイント (予選 1 位) 準決勝①勝利→決勝 1 位
2 フランス	予選 42 ポイント (予選 4 位) 準決勝③勝利→決勝 2 位
3 チェコ	予選 41 ポイント (予選 5 位) 準決勝②勝利→決勝 3 位
4 カナダ	予選 53 ポイント (予選 2 位) 準決勝②敗退
5 ベルギー	予選 43 ポイント (予選 3 位) 準決勝③敗退
6 スイス	予選 38 ポイント (予選 6 位) 準決勝①敗退
7 中国	予選 38 ポイント (予選 7 位) 準決勝③敗退
8 スロバキア	予選 31 ポイント (予選 8 位) 準決勝②敗退
9 スペイン	予選 29 ポイント (予選 9 位) 準決勝①敗退
10 デンマーク	予選 26 ポイント (予選 10 位)
11 韓国	予選 25 ポイント (予選 11 位)
12 オーストリア	予選 20 ポイント (予選 12 位)

### ★女子の部

1 カナダ	予選 54 ポイント (予選 1 位) 準決勝なし(直接、決勝)→決勝 1 位
2 日本	予選 47 ポイント (予選 2 位) 準決勝①勝利→決勝 2 位
3 フランス	予選 41 ポイント (予選 3 位) 準決勝②勝利→決勝 3 位
4 ベルギー	予選 41 ポイント (予選 4 位) 準決勝①敗退
5 韓国	予選 37 ポイント (予選 5 位) 準決勝②敗退
6 スペイン	予選 32 ポイント (予選 6 位) 準決勝②敗退
7 スイス	予選 31 ポイント (予選 7 位) 準決勝①敗退
8 中国	予選 27 ポイント (予選 8 位)
9 チェコ	予選 23 ポイント (予選 9 位)

第8回大会にあたる今大会、日本は高見彰団長（一般社団法人日本キンボールスポーツ連盟理事長）、黒川道子総監督（日本キンボールスポーツ連盟 競技委員会 日本代表統括グループ グループ長）をはじめ、石川剛史男子ヘッドコーチ、柴井健太女子ヘッドコーチほかスタッフ14名、男子選手12名、女子選手12名合わせて38名の選手団で参加をいたしました。

今大会は、男子12ヶ国（カナダ、ベルギー、フランス、スペイン、デンマーク、スイス、チェコ、オーストリア、スロバキア、韓国、中国、日本）、女子9カ国（男子の参加国よりデンマーク、オーストリア、スロバキアを除く各国）の参加がありました。スロバキア、オーストリアの2カ国がキンボールスポーツワールドカップ初参加となりました。残念ながら、第3回から継続参加のドイツの参加がありませんでした。

今回、2014年9月に代表候補選手を選出し、代表候補選手の追加も行いつつ、概ね月1回ペースで合宿&強化練習を行いました。そして2015年4月の時点において男女12名ずつの代表選手を選出し、以降、合宿&強化練習を概ね月2回ペースで行い、今大会に備えました。

今大会は8月17日（月）に前夜祭としてウエルカムパーティーが滞在場所のHotel Avant（ホテル アバント）で開催されました。8月18日（火）～20日（木）の3日間にて予選を、8月21日（金）に準決勝を、8月22日（土）に決勝戦が、会場である体育館 Sports Hall Jose Antonio Paraiso（スポーツホール ホセ・アントニオ・パライス）にて行われました。



体育館正面⇒

試合は今大会より新公式ルールである、1ピリオド13点先取制の3ピリオド先取方式で行われました。予選各チーム3試合を行い、準決勝を経て、決勝を実施。準決勝は男子、女子において組み合わせ等の方式が違う形となりました。その違いは部門別の参加国による事前の多数決にて決定したためです。男子は1位～9位が準決勝3試合／1位、6位、9位／2位、5位、8位／3位、4位、7位の対戦、女子は予選上位1位が準決勝なしで決勝へ。2位～7位が準決勝2試合／2位、4位、7位／3位、5位、6位の対戦という方式。



大会担当レフリーはカナダから2名、フランスから3名、日本から2名（岡村光洋レフリー、岡本貴行レフリー）の計7名で担当しました。不幸なことに、現地スペインでの大会直前の講習会で1名フランスより参加のレフリーが大けがを負ってしまい、レフリーも負担が大きくなってしまいました。

ワールドカップ担当レフリー7名とクラブチャンピオンシップ担当レフリー4名

画像提供:ESJAPON.com

日本男子チームは予選3戦全勝の最高勝ち点54ポイント（予選第1試合：18ポイント＋予選第2試合：18ポイント＋予選第3試合：18ポイント）。同じく予選3戦全勝のカナダ男子チームは警告を1回受けたため、マイナス1ポイントの53ポイント。この結果により過去の大会を通して初の予選1位が決まりました。

女子は、カナダ女子チームが予選3戦全勝の最高勝ち点54ポイント。日本女子チームは予選3戦2勝、2位1試合の予選47ポイント（予選第1試合：18ポイント＋予選第2試合：18ポイント＋予選第3試合：11ポイント）となり、予選2位の結果となりました。

準決勝第1試合。男子は予選で2ピリオド奪われ、苦戦を強いられた予選6位スイスとの戦い。（もう1チームは予選9位のスペイン）スイスのヘッドコーチ兼キャプテンのMarc-André Morin（ニックネーム／マーク）はカナダ・ケベック州出身の選手でカナダ女子チームのヘッドコーチとしてワールドカップ優勝の経験もあります。国際結婚の後、スイスに移住。前回大会ではスイスチームのヘッドコーチとしての参加でしたが、今回、スイスチームの他の選手に請われて、初のスイスチームの選手としての出場となりました。※現在のところ、キンボールスポーツのワールドカップでは6ヶ月以上の滞在経験により、出場資格を得る決まりとなっています。



マークは 2011 年パンパシフィックカップにカナダ選手として来日。2013 年には日本連盟の主催講習会の講師として招へいし、日本として戦術、練習方法、心構えなど多くのことをマークより学びました。ただ、日本が学んだだけでなく、マークも日本のものを多く学んでいました。そこにはキンボールスポーツの関連だけではなく、犠牲の精神や控えめな個人主張などの内面的なものも含まれています。宮城、東京、千葉、大阪、神戸などを回った経験から、日本国内の地域性についてもある種の理解がなされているほどです。そのようなことから、日本人ベテラン選手の名前と顔だけでなく、性格も言い表す事ができます。もちろん日本チームの基本戦術にも精通していました。

またもや苦戦の可能性もあるのかと試合前は気を揉みましたが、日本男子チームも予選で苦戦した分、対スイス対策が準決勝の時点では明確になっていました。準決勝がはじまってみれば、圧勝のストレート勝ちを収めることができました。その結果、順当に決勝に一番で駒を進めることができました。

準決勝第 2 試合。スロバキア/カナダ/チェコ。過去のワールドカップを通して、一度も負けたことないカナダチームが追い込まれます。試合中に、どんどんいい動きになっていくチェコ、スロバキアに対して、焦ってミスが目立つカナダ。予想もしていなかった、4 ピリオド終了して、チェコ 2 ピリオド、カナダ 2 ピリオドの取得状況。会場は波乱を期待する雰囲気 が段々強くなっていきます。

第 5 ピリオド、勢いを感じるチェコ。スロバキアも持てる力以上のものがでているかんじがあります。観客にも伝わるカナダの焦り。今大会のルールでは得点 11 点がキーポイントです。3 チームの中で 1 チーム以上 11 点に到達した段階で、一番の点数の低いチームがコートからでて、残り 2 チームで戦うことになります。

第 5 ピリオドのその終盤、カナダにコールミスの判定。この段階でチェコ 10 点。カナダ 9 点。スロバキア 9 点。判定に納得がいかないカナダはキャプテンが確認。確認を選手は受け入れて、次のプレーにという状況でしたが、カナダチームのベンチでヒートアップした、ヘッドコーチとアシスタントコーチがコートに入ろうかといわんばかりの位置で抗議の声。それにすぐさま、ヘッドレフリーよりスポーツマンシップに反する警告が！そのベンチへの警告による得点 1 点加算で、チェコ 11 点。カナダ 9 点。スロバキア 10 点。会場は割れんばかりの声！！

その後、試合はチェコがスロバキアを倒し、ピリオド奪取。試合終了。この段階で、カナダ男子の今大会は終了となりました。

なにかいつもと違う不思議な雰囲気、前の試合の余韻の残る中、予選 4 位のフランスが予選 3 位のライバル・ベルギーを倒し、決勝進出を決めました。

チェコ男子チーム



女子は予選結果でカナダが決勝進出を決めています。そのカナダと戦う権利を得るために、準決勝 2 試合が行われました。スイス/ベルギー/日本は順当に日本が文句なしのストレート勝ちで決勝進出。

もうひとつの準決勝は韓国/フランス/スペイン。地元スペインの大声援の後ろ盾をものともせず、予選上位のフランスが決勝に勝ち上がってきました。

今大会は前回以上に動画配信には力を入れていました。会場では手の空いたレフリーによる解説も行っていました。動画配信の技術自体も進み、以前に比べるとストレスが少なくはなり見やすくなっていたようです。各国でのキンボールスポーツ愛好者も増加しており、アジア、ヨーロッパ、北米など全世界でこのLive中継を注目していたようです。日本でも時差 7 時間という、時には日本での真夜中の時間ですら、応援に力を入れていただきました。本当にありがとうございます。この声は確実にスペインにいる選手にも届いていました。

今大会はスペインでの普及状況、方針もあり、会場での観戦は無料でした。同時開催したクラブチャンピオンシップにより、スペインだけではなく、世界各国より愛好者が集う大会となりました。ワールドカップには参加していないものの、アメリカ、ブラジル、フィンランドなどの愛好者の参加もあり、今後、この競技のもつポテンシャルを感じさせます。



日本から持っていったお土産のうちわは、30 度を優に超すエアコンのない体育館にいる今大会の観客の熱中症を予防する大きな役目を果たしたと国際連盟よりもお褒めのことばもいただきました。また、うちわ自体がめずらしく、欲しかる人が大勢いました。

最終日 8 月 22 日 (土)。女子決勝戦。日本チームは予選では第 3 戦にカナダと対戦。予選ではピリオドの奪取はできませんでした。決勝戦では第 3 戦と違うメンバーで挑みます。しかし、どのピリオドもじわじわ離されていく展開。カナダがストレートで 3 ピリオドを奪い、カナダ優勝。今大会もまた力の差を見せつけられる結果となりました。フランスとの 2 位決定延長戦のサドンデスでは圧勝で、銀メダルを決めることができました。



画像提供:ESJAPON.com

最後に行われた試合が男子決勝。王者カナダがいない男子決勝。ブルー：フランス/グレー：日本/ブラック：チェコ。

フランス男子チームもまた、昨年 2014 年夏、約 1 か月間自主的に日本に選手、コーチが来日し、日本の大会にも参加するなど日本での実戦の中での力試し、レベルアップを行っていました。また日本もフランスより新ルール of 解説を教わるなど、国際交流を行い良きライバルで、以前より自分たちの出場しない決勝戦は声をからして、日本チームの応援をしてくれる親日国でもあります。ただ、今大会の予選での対戦ではスイス同様に 2 ピリオド奪われており、打倒日本の研究熱心さを感じていました。



チェコ男子チームは昨日、大金星を上げたチーム。本大会中に実力を上げています。悔る事はできません。

フランスチームと日本男子

～以下、決勝詳細は日本選手団小野宣喜さんのレポート～

このページの画像はすべて ESJAPON.com 提供

### ■第1ピリオド

- ・フランスのヒットでピリオドが始まる。
- ・各国ともに一人セットを軸に攻撃を組み立てる。
- ・日本はスクエアと R（穴があるように見せかけて、全員が同時に右回りに動き穴を封じるディフェンスをする）でディフェンスをするが、タイミングをはずされ得点される。
- ・日本のミスもあり、第1ピリオドを取られてしまう。

★第1ピリオド取得：フランス フランス先制！



### ■第2ピリオド

- ・2ピリオド連続で取られたくない。なんととしてでも取り返したい。
- ・前ピリオドとは違うメンバーでピリオド奪取を狙う。（ベンチ入りメンバーは8人まで可能）
- ・チェコのヒットでピリオドが始まる。
- ・日本の早いタイミングのヒットが冴え渡る。
- ・相手のクロズド・ディフェンスがはまらなければ、日本の攻撃力は冴える。
- ・ヒットが決まり始めると、相手の攻撃はコート中央からではなくなるので守りやすい。（ヒット位置は前回のミスのあったところのため）
- ・リズムは日本ペース。ピリオドを取りかえす。

★第2ピリオド取得：日本 日本奪い返す！



### ■第3ピリオド

- ・日本のヒットでピリオドが始まる。
- ・連続でピリオドを取りたい日本の攻撃ギアもあがる。
- ・対戦国も持ち前のパワーを活かし、日本のスクエアディフェンスの間を通し、食らいつく。
- ・得点の取り合いになるが、日本にミスが出始める。
- ・対戦国も次第にギアを上げてくる。パワーで速く鋭いヒットに加え、コートを大きく使ったロブ（選手より後ろに落とすヒット）、速攻やホールド（セット位置を限定させない移動）を使った移動攻撃を仕掛けてくる。
- ・日本もパワーヒットだけでなく、柔らかくヒットし1.8mぎりぎりに落とし、得点を奪い返す。
- ・得点が10対10対10のオールで迎えたターン。1ピリオドずつ取っている日本、フランスは互いをコールする。
- ・日本、フランスに間を通され失点する。
- ・チェコとの一騎打ちになったフランスはピリオドを取る。

★第3ピリオド取得：フランス フランス王手！

### ■第4ピリオド

- ・チェコのヒットでピリオドが始まる。
- ・大手をかけたフランスにミスが目立ち始める。
- ・日本は安定し始めた守備でリズムを作り、得点を重ねる。
- ・チェコは移動攻撃を仕掛けてくるが、日本はしっかり対処する。
- ・チェコのミスで日本リードのまま、フランスと一騎打ちになる。
- ・フランスは勝利がかかるピリオドだけに連続得点で日本に食らいつく。
- ・日本、フランスの守備連携ミスをしっかりとものにする。

★第4ピリオド獲得：日本 日本追い付く！ 日本も逆王手！



### ■第5ピリオド

- ・フランスのヒットでピリオドが始まる。
- ・第4ピリオドのよい流れのまま、第5ピリオドに入る。
- ・日本は一人セットに加え、コンビネーションの攻撃パターンを増やす。
- ・日本は巧みな連動プレーで、畳み掛けるようにクロズド・ディフェンスをかわし、さらにペースを掴む。
- ・そして、日本も見せていなかった投げ（ボールをパスしてセット位置を変更）やホールドなどの攻撃で得点を重ねる。
- ・対戦国は日本のペースにのせられミスを連発する。
- ・フランス痛恨のコールミス。
- ・日本とチェコの一騎打ちとなる。
- ・最後、チェコはスクエアでの守備を取ったが、日本のヒットは守備に触られることなく、ボールはコートに落ちる！

★第5ピリオド獲得：日本 日本、初優勝！！



興奮さめやらぬまま、女子準優勝、男子優勝の表彰式。表彰式で初めて流れる日本の国歌は格別の感がありました。



MVPに関して、日本人が選ばれるのではないかと期待のもと、表彰式時にアナウンスを待っていましたが、日本としては残念な結果となりました。

今大会、女子はカナダの Vanessa Royer 選手、男子はフランスの Thierry Boschat 選手が MVP に選出されました。両選手、おめでとうございます！

今大会の入賞以外のチーム表彰は、スポーツマンシップ（フェアプレー）賞は中国チームの受賞となりました。

← 女子MVP Vanessa Royer 選手(カナダ)

男子MVP Thierry Boschat 選手(フランス・写真左) ←



今大会では、日本とスペインに関する情報を日本語とスペイン語で発信するオンラインメディア ESJAPON.com に取材してもらい、このワールドカップレポートを記事にしてもらいました。帰国後も画像提供など、親切で丁寧な対応に感謝しております。このレポートをはじめ、テレビ、新聞等の写真としてもこれからも多くの活用する予定です。

★ワールドカップ日本語記事：[http://www.esjapon.com/ja/copa-mundial-del-kinball\\_final-9900](http://www.esjapon.com/ja/copa-mundial-del-kinball_final-9900)

★ESJAPON.com ホームページ：<http://www.esjapon.com/>



取材いただいた ESJAPON.com の方々



こちらも取材いただいた ESJAPON.com の方



応援いただいたマドリードの日本人学校関係者

また、暑い最中、現地の日本人学校の関係者も会場にて応援に駆けつけてくれました。異国の地での同胞の方々との交流は心熱いものがありました。

スペインの今大会スタッフは少数精鋭で、ずばり、この右の写真のメンバーだけで運営を担当していました。本当に驚きます。急な依頼に関して嫌な顔をせず、臨機応変に対応する姿は、次回大会においても見習うところであると感じています。また長である Diego(ディエゴ：写真下段右から2番目)が毎晩、夜中の2時、3時までホテルで任務をこなしている姿には心打たれるものがありました。次回大会に Diego をはじめ、今大会スタッフが来日した暁には、できる限りの対応をしたいと考えています。



2007年の第4回大会から始めた寄付のお願いですが、今回も日本全国のみなさまから多数の寄付金をいただきました。また、大会前には多くの壮行会、激励会等の開催、ワールドカップ期間中の昼夜を問わずのご声援に深く感謝しております。ありがとうございます。

また、すでにご存知の方も多いと思いますが、次回2017年のワールドカップ日本開催が決定しました。8月21日に国際連盟代表者会議が実施され、本年度の日本連盟総会での決議に基づき、2017年のワールドカップ開催誘致、立候補を行いました。満場一致にて日本でのワールドカップ開催が決定したことをここにご報告させていただきます。次回大会は今まで、カナダ、ベルギー、スペイン、フランスで味わった感動を各国にお返しできるよう、大会を準備、運営していきます。課題も山積みではありますが、みなさまのご支援ご協力のもとに解決していければと考えております。「私はこういう形で協力したい！」などご意見ご要望を日本連盟まで連絡ください。よろしくお願いいたします。

アジア連盟も今大会を機に実質的な活動に入りました。2016年度に大阪で開催予定のアジアカップにもワールドカップ同様のご支援ご協力をよろしくお願いいたします。